

令和5年度 第2回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時 令和5年11月28日(火) 13時30分～15時30分

○開催場所 かながわコミュニティカレッジ講義室1 (かながわ県民センター11階)

○出席者

伊藤 真木子 (青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授)

加藤 直樹 ((一社)神奈川県専修学校各種学校協会 常任理事)

加茂 圭子 (公募委員)

坂田 美保子 ((特非)湘南NPOサポートセンター 理事長)

澤岡 詩野 ((公財)ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員)

志田 淳一 ((社福)神奈川県社会福祉協議会地域福祉部 地域課 課長)

為崎 緑 (中小企業診断士)

鶴山 芳子 ((公財)さわやか福祉財団 常務理事 共生社会推進リーダー)

○議題

- 1 令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の中間報告について
- 2 令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営業務委託団体の募集に係る主な仕様書の変更点について【非公開】
- 3 令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営業務委託団体募集案内について【非公開】

○議事内容

議題1「令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の中間報告について」

(受託事業者より資料1-1、1-2に基づき報告)

為崎委員

申込率をみると、ほとんどの講座が100%を超えており、たくさんの方が受講されているということで、充実した内容だったのではないかと思います。

ただ、申込率が低い「防災教育ファシリテーター養成講座(小田原会場)」について、申込率が低い理由は何かお聞かせください。

もう1点、資料1-2の台風時の対応の部分において、対面からオンラインへ切り替えた「地域のつながりで始めるあなたのウェルビーイング講座」があります。先ほど受講生はオンライン環境が整ってらっしゃるとおっしゃっていましたが、対面からオンラインに切り替わったことで受講できなかった方はいたかどうか教えていただければと思います。

また、修了生アンケートをみると、「入門講座を受講してステップアップの講座を受講しようとしたが、抽選だったため受講できなかった」という意見がありました。非常に人気があって申込率が高い講座の場合、入門講座を受講して意欲のある人が次に進めないという点について、どのように捉えているか教えていただければと思います。

受託事業者

「防災教育ファシリテーター養成講座（小田原会場）」につきましては、なかなか申込みが少なかったため、追加のチラシを作成し、広報を強化いたしました。小田原市の広報紙にも掲載をお願いしましたが、掲載要件が小田原市内の団体や小田原市のみの事業が対象のため掲載はできないということでしたので、「おだわら市民交流センター UMECO」にご協力いただいて広報活動を展開しました。講座の会場については、講座実施団体の希望で小田原市内の会場（UMECO）になりましたが、もう一度見直さなければならぬと思います。

ただ、今回、小田原市の会場で開催したことで、この講座以外にも小田原市から参加されることに繋がったのではないかと考えています。今まではほとんど小田原市から参加される方はいらっしゃらなかったもので、広報の効果が出ているのかと思います。小田原市は、防災関係の団体がかなり充実しており、今回の講座は、「子どもたちに向けての防災教育」というところが一番のポイントだったのですが、最初に作成したチラシがその部分が上手く伝わらなかったと思い、もう一度、「子どもたち向けの防災教育」というところでチラシを追加で作成しました。学校の先生等が受講のターゲット層になるので、例えば、教育委員会等といったところにもアプローチできたら、もう少し人数が増えたのではないかと考えております。

また、「地域のつながりで始めるあなたのウェルビーイング講座」につきましては、元々、対面とオンラインを組み合わせた講座でして、全5回のうち2回がオンライン、3回が対面での開催ということで募集をかけているので、受講される方はオンライン可という条件がついておりました。そういうこともあり、オンラインでも対応できるだろうということでオンラインに切り替えました。ただ、他の講座について、オンライン講座と併用の講座でなければなかなか難しいので、この対応はできなかったのではないかと考えています。

「入門講座を受講した方が優先的にステップアップ講座を受講できるようにする」についてですが、何度もご要望をいただいております、個別で受講生の方から言われることが多いです。ただ、入門とステップアップの講座は、別々で募集をしている関係上、そういう人たちを優先してしまうと、講座の定員も決まっておりますし、講座の募集をまったくかけられないということもあるので、検討する課題ではあると思いますが、今のところは受講したいという方に対しては措置ができていないという現状です。

為崎委員

今のお話を聞いていて、機会の公平性をどう捉えるのかというのが難しいと思いました。開催場所について、意見の中で「横浜は遠いので横浜以外で開催してほしい」という声もあり、一方で、小田原市の会場で開催したら人が集まらないというところで、県域全体で受講の機会をどう確保していくのかの検討が必要かと思いました。

また講座のステップアップについては、入門編と上級編でそれぞれ募集をかけることに

よって、機会の公平性が担保されていると思いますが、そうすると、せっかく学習意欲が高まった人が受講できないのもあって、機会の公平性の確保と継続して受講したいという人のニーズを汲み取るという2つのバランスは、今後、このコミュニティカレッジで検討していく課題なのではないかと思いました。

伊藤座長

ありがとうございます。澤岡委員、お願いします。

澤岡委員

3点お伺いしたいことがあります。

1つ目は、かながわコミュニティカレッジとして、「かながわ 100 歳時代ネットワーク」に参加しているというお話をしていただきましたが、このネットワークは、多種多様な団体や企業が集まっているので、この定例会の場において、「こんな講座を募集しています」や「皆さんもこんな講座を提案してください」というような投げかけをされたことはあるのか教えていただければと思います。されていた場合、どんな反応があったのかも併せてお聞きしたいです。

2つ目は、昨年もそうでしたが、「傾聴講座」や「発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座」については、今年も人気があるということで、どう考えていけばいいのかと悩ましいところではあると思います。ただ、例えば、こういうニーズがある、まず県として課題に取り組んだ結果、ニーズが高いということで、このコミュニティカレッジを受講されるということは、住んでいらっしゃる地域で探しても、もしかしたら講座がなかったのかもしれないというところで、コミュニティカレッジとしてやるべきことかはわかりませんが、各地域での学びの場に、「こういうニーズが高い」ということを発信していくことで、地元でもこういった学びができるという場を広げていくというのも、県がやる事業として大事な部分なのではないかと思いました。そういうような働きかけはされていらっしゃるのか教えていただければと思います。

3つ目は感想のような話なのですが、やはり、今回、聴覚に障がいがある方が受講されたということで、これはすごいことだなと思いました。勇気のある方が学ばれているイメージがあって、「こういった方も学ばれていますよ」というような等身大の姿が広報等で伝わると、受講してみようかなという気持ちになるのではないかと思いました。こういった実際に学びたいと思って受講した方の姿を色々な場で発信するというようなことはされているのでしょうか。

受託事業者

まず、「かながわ人生 100 歳時代ネットワーク」についてですが、立場的に団体との微妙な関係性が生まれてしまうので、大々的には周知しておりません。このコミュニティカレ

ジの仕組み上、提案していただいた講座すべてが来年度実施できるものではないので、周知は難しいと思っておりますが、紹介していく中で、こういう講座を実施しているという話はしているので、個別にご連絡はいただいております。実際、今回の講座企画提案募集において、新規で提案書をご提出いただいた団体がありましたので、コミュニティカレッジを知ってもらい、その中で講座をやってみたいという団体には声をかけていくのが良いのではないかと思います。

「傾聴講座」や「発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座」については、毎年、抽選になる講座です。この2講座については、まずコミュニティカレッジを知ってもらうきっかけの講座になっております。ここから他の講座も実施しているという、入口としての講座となっており、このコミュニティカレッジにおいて大事な講座であると思っております。

地域に発信していくところでいうと、今回、横須賀市市民生活課の方で、コミュニティカレッジを受講すると横須賀市から助成金を出すという取り組みをしております。ただ、本年度の助成金対象者は、横須賀市市民活動支援センターに登録している団体の会員に限定していることもあり、あまり知れ渡っておりません。本日確認したところ、現時点で申込人数は11名ということでした。来年度については、市民活動支援センターに登録している団体の会員という縛りをなくしたいという方向で、現在調整しているとのことでした。その申込まれた11名の方たちは、傾聴講座を受講されている方が多いです。傾聴を希望されるということは、抽選で落選していらっしゃる方もいるということで、地域にそういうところを発信していく、もしくは、ニーズが高い傾聴関係というものは必要なのではないかとお話を伺っていて気付きましたので、地域に発信していくというのは何かしらあるのかなと思っております。例えば、横須賀市で傾聴的な講座を実施する等、そうやって広げていくというのはあるのかなと思われました。

聴覚障がいの方の受講については、特に広報で発信はしておりませんが、そういったところも含めて今後検討していきたいと思っております。

県事務局

澤岡委員からご質問のあった、かながわ人生100歳時代ネットワークの話ですが、ソコカナさんは「この指とまれプロジェクト」の1団体として参加しておりますので、立場上、紹介することは難しいと思っておりますが、確かに企画募集の提案を促す良い機会だと思っております。ただ、企画提案募集自体は県が実施しているもので、そういう視点はなかったもので、来年度は是非、県として何か紹介できる方法を考えたいと思っております。

伊藤座長

ありがとうございます。県内の市町村に県として掴んでいるニーズを伝えるという役割も、行政の役割なのではないかと思います。積極的に受け止めていただければと思います。

県事務局

この事業ではないですが、県の事業で支援施設の方に集まっていただくような会議もございますので、そういったところでご披露するのもいいのかなと思っております。

鶴山委員

今のところに関連して、多くの方が申込まれて受講されており、大変喜ばしいと思います。それに対して本当に色々な工夫をされて対応されていることが本当に素晴らしいなと思ってお話を伺いました。先ほどの話の中で、私も澤岡委員の意見を聞きながら思ったのですが、人気の高い講座からでもいいと思うので、地元に戻った際にどういうところで活動するのか、どこと繋がると活動に参加できるのかというところを具体的にリストアップしていくと、講座だけではなく、社協や中間支援団体、行政もあると思いますし、何かリストアップしたものをお見せして繋いでみるといったことをすると、また、地域活動に繋がるのではないかと思います。

また、なぜこんなに申込みが増えたのかというところについて、今までも人気の高い講座とそうでない講座でとても差がありましたが、今回、全体的に申込みが多かったと思いますが、その理由は何かというところは捉えていらっしゃいますでしょうか。それは来年もそうなるのかならないのかというのは、状況もあると思いますが、今の段階でお分かりになれば教えていただきたいです。

あともう1つ、非常に良いアンケートを取っていらっしゃいますが、これは講座実施団体にもフィードバックしていらっしゃいますでしょうか。自分の講座を受けてこういう活動をしているという意見は非常に嬉しいことだと思いますし、色々こういうことに興味がありますという意見も、次に講座を企画する際にこのアンケートを見て検討に繋がられるかと思われましたので、このアンケートが生かせるということでフィードバックしていらっしゃいますかということをお聞きしたいと思います。

受託事業者

ありがとうございます。まず、1つ目のリストアップですが、情報提供ということで、9階の相談コーナーや、講座実施団体にも受講後の活動については積極的に情報提供するようそれぞれの団体に伝えております。社協や中間支援センターの存在をリスト化して配布はしていませんが、講座ごとに対応しているので、受講後の活動が学んだだけで終わらないで次に繋がるようにというところが重要だと思っているので、そういうところは積極的にやっていきたいと思いました。

また、増えた理由ですが、申込人数自体は昨年とあまり変わっていない印象で、主催講座の申込人数については1,000人強ぐらいを見込んでおります。受講人数については、少ない講座もありますが、満遍なくかなり定員に近い人数が受講しており、昨年よりは増えるかと

思います。

ただ、ここ3年、コロナ禍での講座実施を経験して、7月から講座を実施しておりますが、コロナが5類に移行した後に実施しており、受講生の様子を伺いながら実施しておりました。受講生の中には、マスクを着用されて受講されている方もいらっしゃいます。ワーク時に隣同士で話し合ったり、対面で話したりすることが非常に多いのですが、それに対して、抵抗なくお話されています。「近いのが気になる」といった声はいただいておりません。そういう意味では、コロナ禍の時は、「自分の学びのために知識を蓄える、コロナが明けた時に何かをやりたい、今は何もできないけど、何か学んでおきたい」という方が多かったように感じます。今はどちらかというと、積極的に動かれている方、もしくは、これから動きたいという方が、少し増えてきたのではないかと思いますので、今年受講された方が次の活動に繋がるような方が多いのではないかと感じております。

アンケートの講座実施団体へのフィードバックについて、個別にですが、団体と会った際にこんな声があったということはお伝えすることはたまにありますが、確かにおっしゃられたように、講座ごとで修了生アンケートを取っているということと、実際に団体が受講後の活動を把握している方としていない方がいるので、団体にフィードバックするのは有効かと思えます。昨年講座を実施した団体に修了生アンケートをフィードバックすると、次の運営等に繋がると思えますので、参考にさせていただきます。

坂田委員

丁寧な報告を聞かせていただきありがとうございます。先ほどお話いただいた人気のある講座、「傾聴講座」と「発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座」ですが、実は私、ひらつか市民活動センターの方を運営しておりますが、平塚市の方でも傾聴に参加したいというニーズがここ2年ほど非常に増えています。それから、発達障がい者の支援を行っているグループの活動も非常に活発になってきています。そういったことを踏まえると、この2講座の申込率の多さをみて驚きましたが、平塚市も同様に傾聴は非常に人気が高いので、これは県域全体でも人気が高いのではないかと思いますし、このコミュニティカレッジで受講されている方が、もし地域に戻って実際に傾聴のグループに入って活動したいということであれば、是非ウェルカムでお願いしたいと思います。

もう1つ、先ほどお話いただいた、横須賀市の助成金制度ですが、コミュニティカレッジを受講した方に助成が出るというお話は驚きました。その助成金制度ができた経緯がもし分かれば教えていただければと思います。

受託事業者

傾聴講座については、以前は、横浜会場とは別に大和市や鎌倉市といった地域に出向いて講座を実施していたこともありました。地域で募集をしても結構人数が集まる講座でした。それぞれの地域に傾聴グループがあるので、そこに繋がるような形だったのですが、ここ3

年のコロナの影響により、傾聴グループの繋がりがコミュニティカレッジと若干切れているような雰囲気でした。今ようやく「傾聴かなコミ 21」という受講生が作った団体があるのですが、その団体はお手伝いに来ていただいて、受講生にチラシを配布して活動しないか呼びかけを行っています。他の地域ではなかなかそのような動きは出ていないので、その部分については、色々な地域から受講されるので、このコミュニティカレッジで学んで地域に戻って活動していただくという流れを作れたらいいなと思います。

県事務局

横須賀市以外の助成金制度としては、一般社団法人かながわ土地建物保全協会の「人材育成支援事業助成金」もございます。

横須賀市の助成金制度の趣旨ですが、「地域の問題解決や活性化に向け市民公益活動を行う市民の皆さんのために、かながわコミュニティカレッジの主催講座の受講に対し奨励金を支払う」というものです。昨年、横須賀市から当センターにお話をいただきまして、コミュニティカレッジを受講される横須賀市民の助成をしたいということでした。こちらから働きかけたわけではないのですが、横須賀市から当センターは比較的近いということもあるのか今年度から始まったものです。

坂田委員

ありがとうございます。影響を受けますね。

加茂委員

講座を通してできる団体があると思いますが、そこに来た方というのは向上心の高い方だと思います。そういう方が繋がる交流の場がいつかできたらいいのではないかとというのが1つ目です。

2つ目は、実際にこのセンターに来たことがある方はどのくらいの距離感が分かっているので、このコミュニティカレッジの講座も受けやすくなりますが、実際、遠くから来てくださった方のインタビューといったものがあるとわかりやすいのではないかと思います。

それから、いずれ必要になる“若返る”というところについては、重点を置いていただきたくて、講座を受講されている方の割合が60歳代、50歳代というところにターゲットが向くのはそれが世の常だと思いますが、若返りを大切にしていきたいと思います。

また、傾聴というのは、人気の高い講座だと思うので、若い人がどうやったら来てくれるのか、例えば、私の場合ですけれども、託児のついている講座で志を共にする仲間ができたので、予算の関係があるので難しいと思いますが、そういったところに焦点を当てていただければありがたいなと思います。

受託事業者

まず交流会ですが、一応、自由提案において交流会を実施するというところは計画しております。今回受講された方たちに対面で実施したいと考えております。日程は決まっていますが、1月中旬～2月中旬あたりぐらいでの開催を考えております。7月、8月くらいに受講された方たちは、受講した時の気持ちの盛り上がりが少し落ち着いているように感じており、もう一度奮い立たせるという意味で、講座を受講した後の次のステップに繋がるような交流会を実施したいと考えております。

遠方からの受講生のインタビューについてですが、非常に良いヒントをいただきました。ありがとうございます。その部分の視点はありませんでした。乗り換えないといけない地域からでも来られる方もいらっしゃいます。その方がなぜ時間をかけてでも来ているのかというのは聞いてみたいなと思いました。そういう方になぜ受講したのか、受講してどうだったかというようなことを含めてインタビューできたらいいなと思いましたので、参考にさせていただきます。

若返りについてですが、講座によっては60歳代、70歳代の方が中心で、次いで50歳代が多い状況です。先ほどお話した「かながわ人生100歳時代ネットワーク」の会議の中には、大学生や大学を卒業した方たちが起業して、地域で地域づくりをやっているという団体がいくつもあります。そういったところで、何かニーズがあれば、その方たちの活動を参考にする、あるいはそういった方たちが講師として講座を実施するといったところでいうと、受講生のターゲット層がかなり変わってくると思うので、そういう部分も含めて、次を担う世代を育成するという部分が大事な視点だと思いました。非常に参考になります。

県事務局

3つ目については県事務局からお話させていただきます。託児についてですが、予算が関係する部分で費用はないのですが、今年、講座企画提案募集説明会を開催して何団体か参加がありました。その際、団体から「受講生のボリュームゾーンはどこか、どこを狙うといいのか」という質問がありました。アンケートのとおり50歳以上が多いが、この運営委員会のお話があって、若返りは課題になっているので、そういう部分も十分考慮して提案するよう伝えました。ただ、この講座企画提案募集の時に、若返りのことは提示していないので、来年の講座企画提案募集の際に、明確に提示した方がいいのではないかと思います。また来年、この運営委員会でメインテーマを決めることとなりますので、その時にそのことを考慮して設定すると、求めるターゲット層が分かるようなPRができるのではないかと思います。

加茂委員

色々なご経験のある方たちが委員になられているので、その経験のところが生きてくるのではないかと思います。先ほどお話したインタビューですが、インタビューをしていた

だいた後に、何らかの広報があった方が来やすいのではないかと思います。

志田委員

意見というよりは感想になります。事前にいただいた資料と説明、それから委員の皆様のご意見聞きながら、県社協の事業と照らし合わせながら考えましたのが、開催地について、横浜、ここの県民センターで開催するというのは、大きな意味があると思います。地域で開催することが必ず良いかは、それぞれに良し悪しがあると思っております、地域でそのテーマを取り扱う基盤やネットワークがなかったり、テーマが攻めた少数派的な意見であったりする場合、地域で開催しても人が集まらないかもしれないといったことがある場合もあります。一方で、地域の人がたくさん集まることで少し話しづらくなる、あるいは県域の色々なところから集まることで、色々な市町村からの話を聞くことができる、横浜という拠点に県域、神奈川県全体を対象にして、1度に集まっていただく良さもあると思います。県社協でも神奈川県域全体を対象にしたボランティアセンターをやっているのですが、その際そういった声が聞こえてきます。地域で開催していればアクセス的にはいいのですが、プログラムやテーマにもよると思いますが、「顔が近すぎる、遠い方がいい」というようなそういった声を聞く機会がありますので、開催地、それから受講の機会というところでは、今後継続して検討していったらいい点なのではないかと思いました。

加藤委員

私も同じく感想なのですが、ここまで成熟して、オール神奈川で動いているなという感想でございます。今、託児の話だったり、横須賀市において助成金を出したりと、それまたオール神奈川だということで、こういう企画が遂行されるといいなという思いでございます。

以上